

令和6年度SE推進事業「国語の授業づくりモデル小学校」

河内長野市立小山田小学校 公開授業全体会

自分の考えをもち、表現できる子どもの育成を目指して
～説明文を通して考えを形成する力をつけるための授業づくり～

取り組み報告

1. はじめに
2. 研究テーマ つけたい力
大切にしてきたこと
3. 取り組み
1年、2年、3年、4年、5年、6年、支援学級
4. 学校全体の取り組み
5. 取り組みから見えてきたこと
6. おわりに

1. はじめに

○本校の課題

R5年度取り組みから

【成果】

- ・本文から正しく読み取る力が教師側の手立てによってついてきた。
- ・書くことに抵抗感がなくなってきた。
- ・必要な言葉を抜き出す力がついてきた。
- ・無回答がなくなってきた。
- ・提示された型に沿って文章をまとめることはできるようになってきた。

【課題】

- ・段落相互の関係を考えながら、よりよい作品になるよう推敲する力、自分の考えをまとめることは十分でない。



R6

既習事項を生かして自分の考えをまとめていく力をつけていくことを目指し、各学年に応じた「考えを形成する」ための手立てに重点を置いて取り組む。

2. 研究テーマ

つけたい力 大切にしてきたこと

研究テーマ

自分の考えをもち、表現できる子どもの育成を目指して
～説明文を通して考えを形成する力をつけるための授業づくり～

多様な言語活動を取り入れた授業

- ・ 目的意識、相手意識のもちやすい言語活動を設定
- ・ 子どもの日常生活や社会生活につながるように

「考えの形成」に至るまでの学習過程を大切にした授業

- ・ 思考の過程を大切にし、（自分や他者が）どのような根拠や理由からその考えに至ったのか、考えられるようにする。

小学校学習指導要領解説国語編に見る「考えの形成」

「考えの形成」文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既
有の知識や様々な体験と結び付けて感想を持ったり考えをまとめたりしていくこと。

「C読むこと」

	考える力	順序だてて考える力	筋道立てて考える力
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
構造と内容の把握	ア時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
精査・解釈	ウ文章の中の重要な語や文を考えて選ぶ出すこと。	ウ目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。	ウ目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	オ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつこと。	オ文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること。

「B書くこと」

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
構造の検討	イ自分の思いや考えが明確になるように、事からの順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えること。	イ筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
考えの形成・記述	ウ語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫すること。	ウ目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること エ引用したり、図表やグラフなどをもちいたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

考えの形成

筆者との対話

「読むこと」の場面での考えの形成

筆者の伝えたいことを考える。主張、工夫を考える。
・順序・対比・事例の比較

自分との対話

「書くこと」の場面での考えの形成

書くことで自分の考えを整理し読みを深める。
・例文・チェックポイント・自分の経験・ふり返り

仲間との対話

「話すこと聞くこと」共有の場面での考えの形成

分かりやすく伝える。
よさを見つける。(友だち・自分)
自分の作品をレベルアップする。

授業づくりのポイント

- ①単元のゴールを明確にする。
- ②目標（つきたい力）を達成するのにふさわしい言語活動の設定。
- ③系統性を意識する。
- ④子どもが試行錯誤や学習の調整ができる場面を設定する。
- ⑤ストライクゾーンを設定し、適切に学習評価をする。
- ⑥子どもが学び方を身に付け、自立した学習者となることを目指す。

①単元のゴールを明確にする。

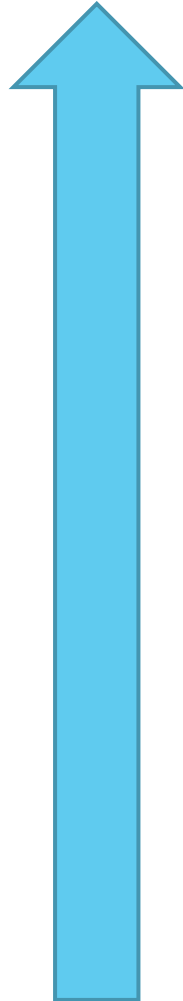
構造と内容
の把握



精査・解釈



考えの形成



考えの形成につながる 読む授業
【何を押さえさせるか】

【何を読み取らせるか】

【何を考えさせるか】つきたい力

そのためにどんな手立てをするか
逆向き設計
ゴールまでの学びをどう評価するか

②目標（つきたい力）を達成するのにふさわしい言語活動の設定。

主体的に考えるためにどんな言語活動を設定するのか

「主体的な学び」=作品について自分事として考える → 考えの形成

粘り強く試行錯誤



伝え合う

考えたい

伝えたい

相手意識・目的意識

例 4年生

「アップとルーズ」 自分の好きなものをアップとルーズで伝えよう

「伝統工芸のみりよくを伝えよう」 本物に触れる。

隣のクラスに自分の選んだ伝統工芸品の魅力を伝え、1番買いたいと思う伝統工芸品をもらう。

書いてよかった

書けてうれしい

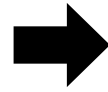
③系統性を意識する。

○指導要領の目標の系統性を示し、単元計画を立てる際に意識するようになった。

(例)

1・2年

中心となる重要な語や文を
選び出す力



3・4年

中心となる語や文を見つけて
要約する力

○ペア研で指導案を検討することで、つながっている学年の目標を確認でき、ゴールやつきたい力、それに対する手だてを自分の学年と比べて考えることができた。

③系統性を意識する。

学びの積み重ね

○1学期から2学期教材や他の教材に学びを積み重ねる

(例) 3年生

「こまを楽しむ」
・初め・中・終わり
・問いを学習



「すがたをかえる大豆」
・文章構成に気付く
・隠れた問いに気付く (R5)

・順序について考える。
・順序について自ら考え話す。



・筆者の工夫を自ら考える。
(R6)

自分ごととして考えて文に書く。

○全体の構成を読み取る

(例) 1・2年生
全文を示す



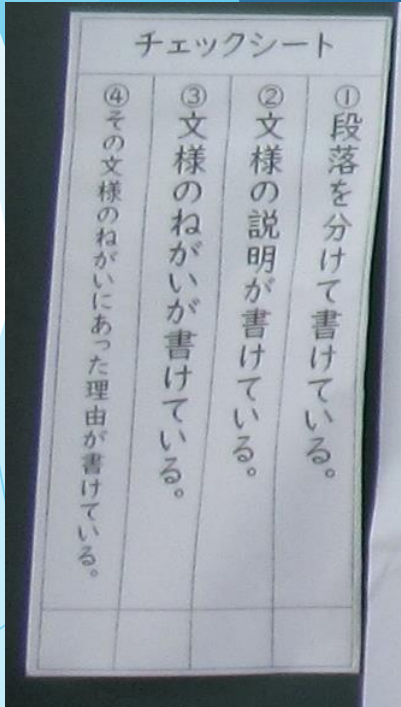
3・4年生
初め・中・終わり



5・6年生
主張・考えとそれを支える理由や
事例との関係

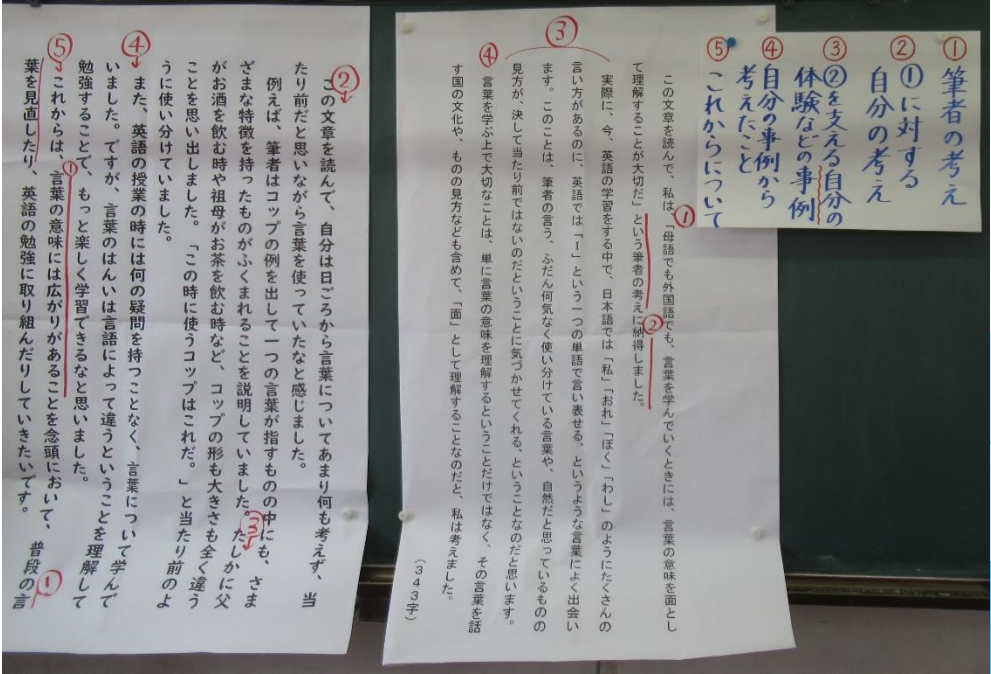
系統性

○【読むこと】筆者の工夫＝【書くこと】チェックポイント



○例文の示し方

○考えの形成の手立て



④子どもが試行錯誤や学習の調整ができる場面を設定する。

対話

個人まずは自分の考えを書くことを大切に

- ペアで・グループで交流する
- 単に話すことにならないように
- 具体的に何について交流するのははっきりさせる

◎ポイントの確認

◎良さを見つける

☆◎異なる考えに気付く

☆◎レベルアップ 助言し合う

○ふり返し

○思考を深めるために「考えをもつ」「交流する」「まとめる」「伝える」場面を設定。



☆

☆

⑤ストライクゾーンを設定し、適切に学習評価をする。

教師全員が単元計画を立て、具体的に判断基準を考える。

児童のゴールの姿と、そのために取るべき手だてを考えられるように、教師全員がゴールの文を書き、判断基準や手立てを検討した。

授業改善

【学習の中で】

- ・読み取ったことをふり返る
- ・子どもの書きぶりから指導をふり返る

【単元の中で】

- ・取り出した情報を自分の考えと結び付けて表現
- ・読み取ったことを書きぶりに活かす

【研究授業の中で】

- ・単元でつけた力をふり返る
- ・前回よりも書けるようになったとわかる
- ・次の学年に活かす（例 教師の例文）
- ・児童のゴールの姿とそのために取るべき手立てが考えられるように、全員がゴールの文を書いた。

【研究体制で】

- ・1学期指導案検討、ペア研校内研の授業参観、放課後の討議会
- ・夏休みに1学期の取り組みのふり返り報告、センターの桐島先生と河内先生のご指導
- ・2学期指導案検討、ペア研校内研の授業参観、放課後の討議会

どの研究授業にも全員で関わり、市教育委員会の東野先生・大西先生にご指導を受けた。



3. 取り組み

- ペア・低学年 支援担任2人 理科専科
- ・中学年 支援担任2人 通級担任
- ・高学年 支援担任 算数専科 教務 (SE担当は全学年に入る)

○説明文教材の指導計画

○1学期と2・3学期に1回ずつペア研究授業と校内研究学校公開授業を行う。

○1学期はSE担当が中心に授業を進める。

【1学期の取り組み】

- 4月26日 6年生 「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」ペア研修
- 5月18日 2年生 「たんぽぽのちえ」ペア研修
- 5月30日 5年生 「見立てる」「言葉の意味が分かること」ペア研修
- 6月13日 3年生 「こまを楽しむ」校内研究授業
- 6月23日 1年生 「つぼみ」ペア研修
- 7月 5日 4年生 「アップとルーズ」ペア研修
- 7月13日 支援学級 「お楽しみ会をふりかえろう」校内研修

【2学期の取り組み】

9月25日 4年生「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりよくを伝えよう」校内研究授業

10月9日 支援学級「運動会の招待状を書こう」ペア研

11月28日 学校公開授業

1年生「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」

3年生「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

6年生「『鳥獣戯画』を読む」「発見、日本文化のみりよく」

12月18日 2年生「紙コップ花火の作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」ペア研

【3学期の取り組み】

1月 5年生「想像力のスイッチを入れよう」校内研究授業

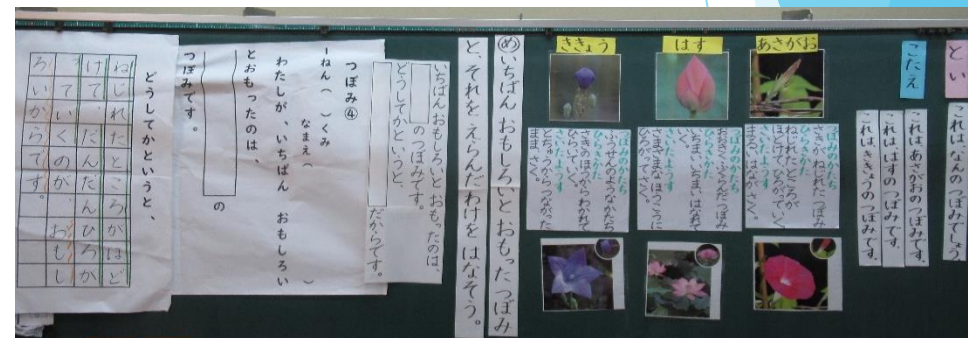
3月 支援学級「感謝の気持ちを伝えよう」公開授業

1年生「つぼみ」「うみのかくれんぼ」

説明する文章を読み、分かった事や考えたことを述べる言語活動

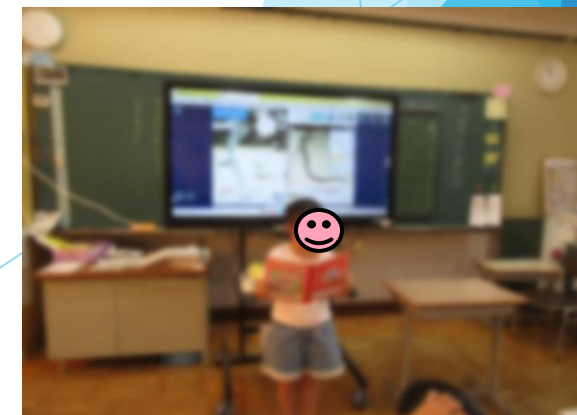
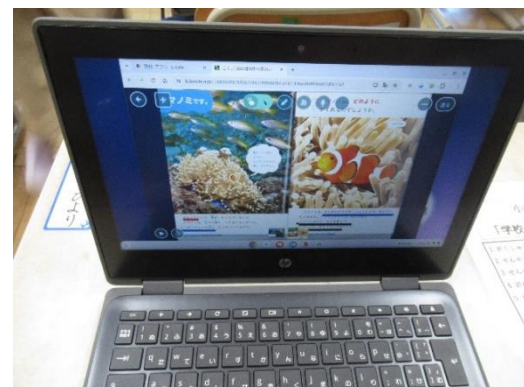


- ・ 問いと答えの関係が分かった。
- ・ 1番おもしろいつぼみを選び、おもしろいと思った理由を書くことができた。



説明する文章を読み、分かったことを伝える言語活動

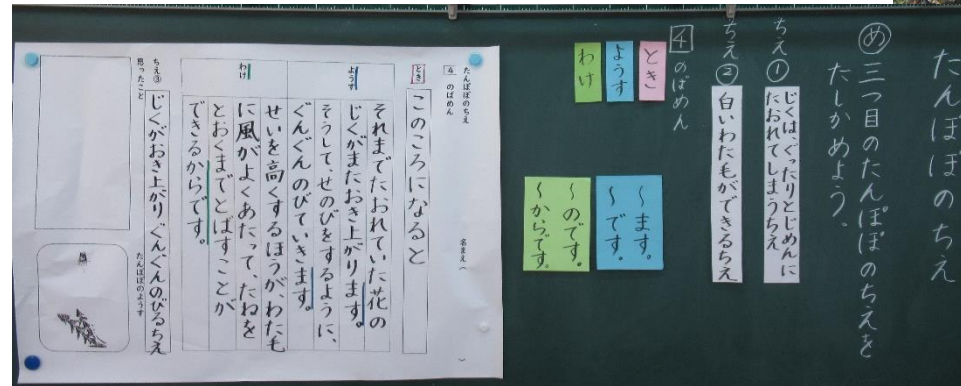
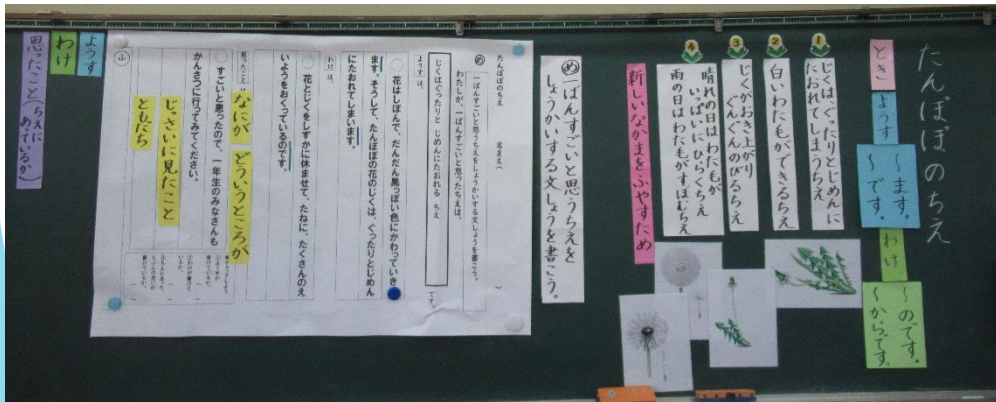
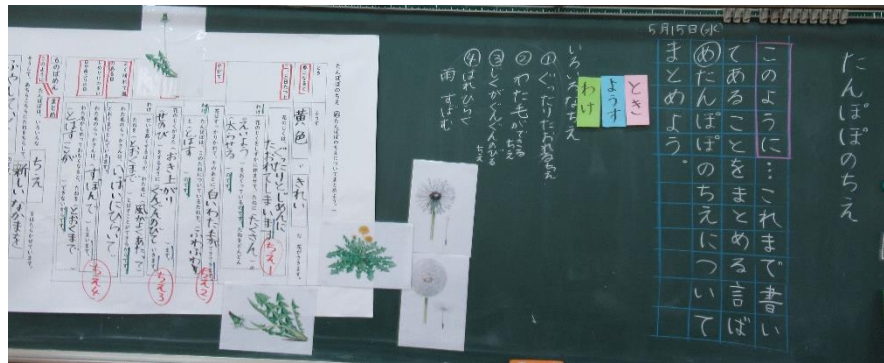
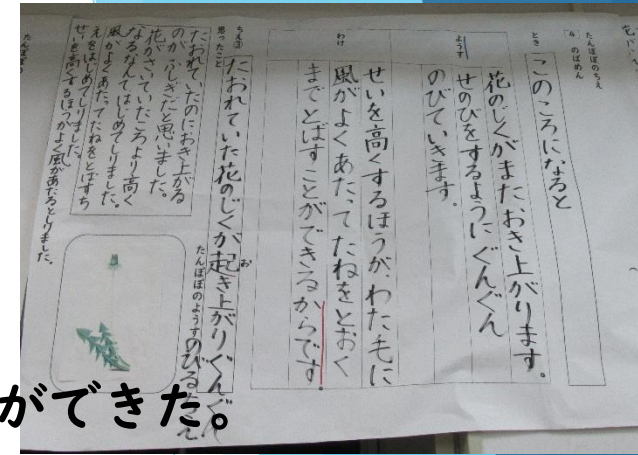
- ・ 文章の中の大事な言葉（「何が」「どこに」「どのようにしてかくれているのか」）や大事な文を考えて選び出すことができた。



2年生 「たんぽぽのちえ」

時間の順序や理由付けを表す言葉に着目して内容を正しく読み、自分の感想をまとめ伝え合う言語活動

- ・1年生に紹介したい知恵を選び、理由と思ったことを書き、伝えることができた。
- ・実体験や友達の見解を取り入れて考えることができた。

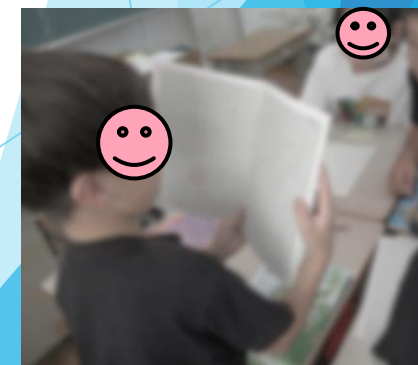
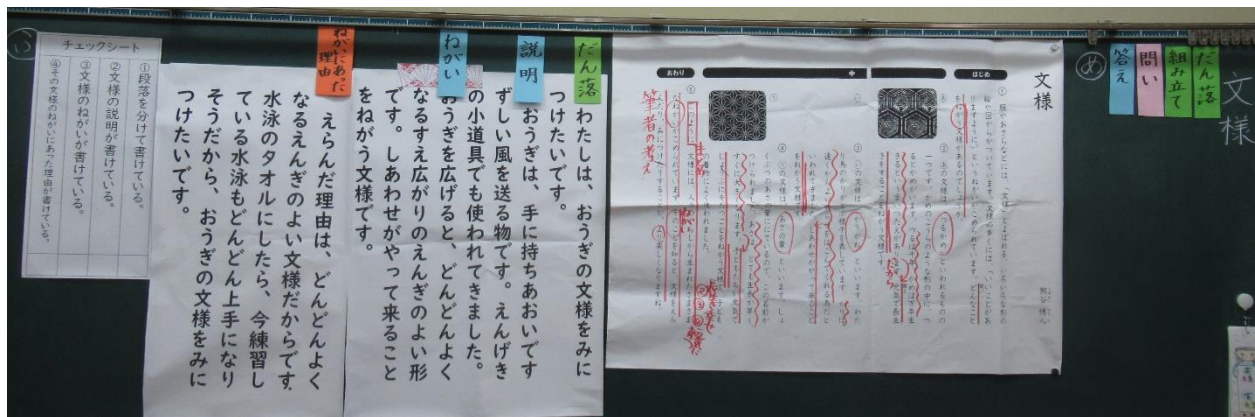
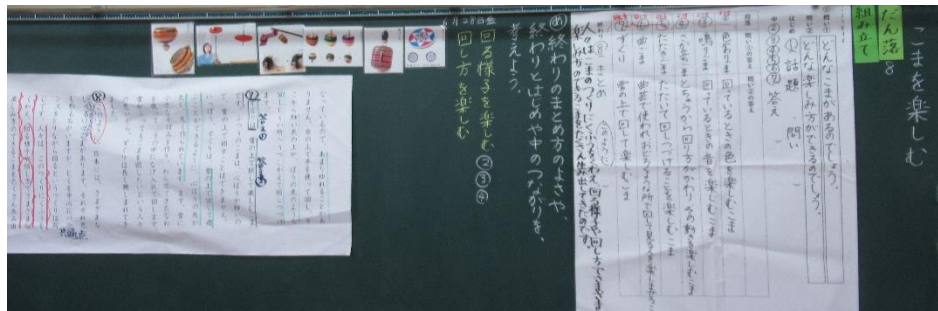


3年生「文様」「こまで遊ぼう」



説明する文章を読み、考えたことを伝え合う言語活動

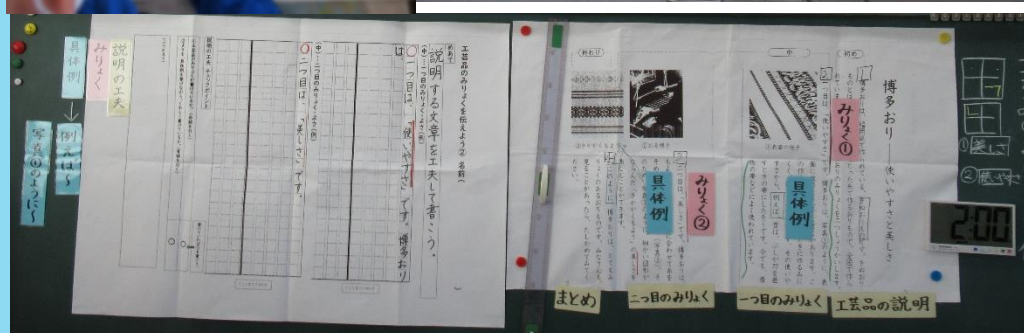
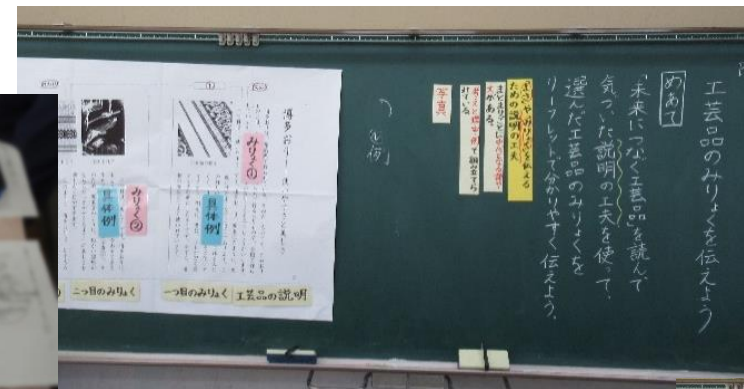
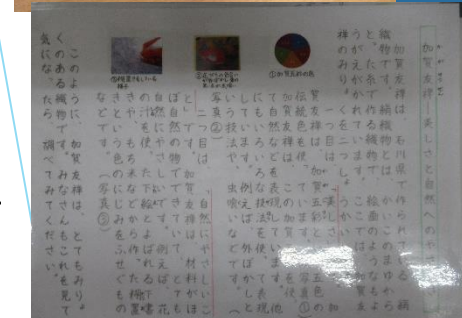
- ・自分が身につけてみたい文様（遊んでみたいこま）と、文様のねがいに合った理由を書くことができた。
- ・問いに対する答えを見つけることができた。
- ・初め、中、終わりの構成を考えることができた。



4年生「アップとルーズで伝える」「未来につなぐ工芸品」

文章の一部を引用して分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする言語活動

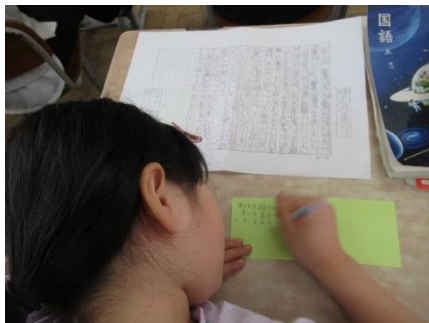
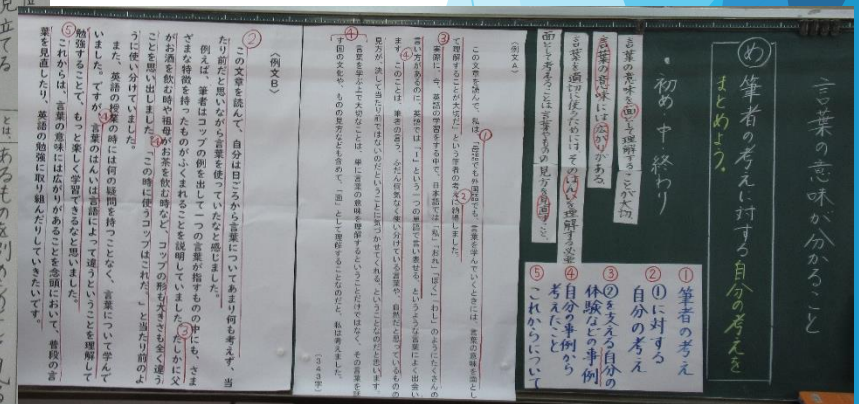
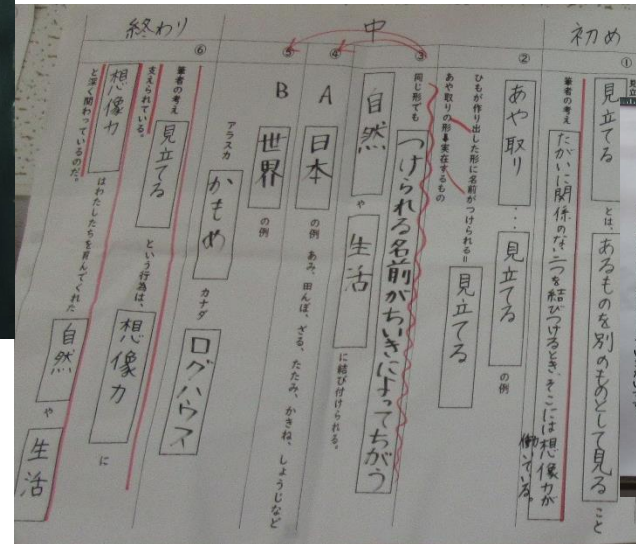
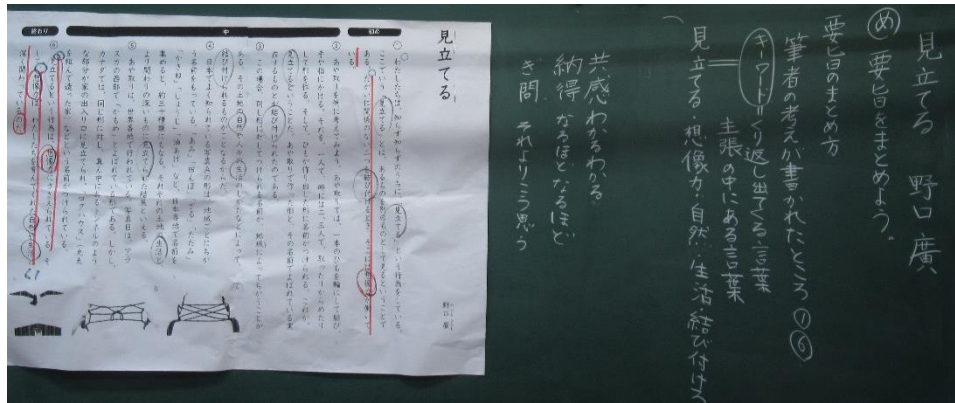
- ・ 叙述を基に筆者の考えを捉え、筆者の考えに対する自分の考えを経験と結び付けてまとめることができた。
- ・ 字数や構成を考えて書くことができた。
- ・ 要約するとき、繰り返し出てくる言葉や筆者の言葉を使ってまとめることができた。



5年生「見立てる」 「言葉の意味が分かること」

筆者の考えや論証の仕方を読み取ったうえで、自分の立場を明確にして文章に対する自分の考えを発表する言語活動

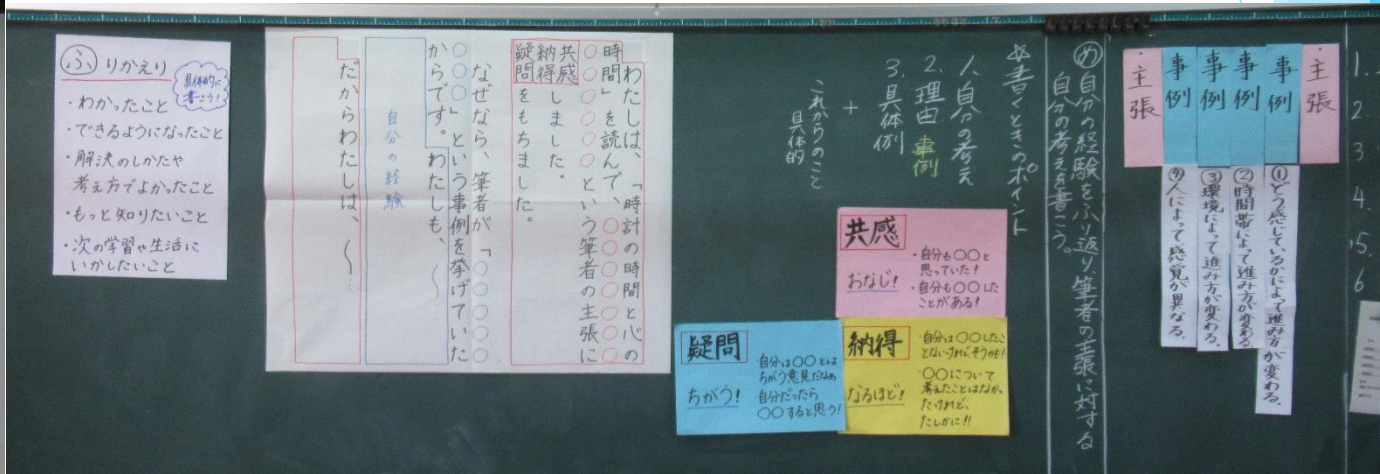
- ・筆者の主張から要旨を捉え、筆者の考えに対する自分の考えを、経験や体験、知識と結び付けて書くことができた。
- ・筆者の事例と主張を区別し読み取ることができた。



6年生「笑うから楽しい」 「時計の時間と心の時間」

主張と事例の関係を捉え、それを使って話題に対して自分の考えを伝え合う言語活動

- ・主張や事例に対して、自分の考えを持ち、意見文を書くことができた。
- ・自分の考えに説得力を持たせるために、自己の経験を絡ませながら文章を書くことができた。



支援学級 なかよし の取り組み

支援学級全体で取り組む国語科の年間計画と評価（単元計画）

時	学習内容	学習評価（◎記録に残す評価○指導に活かす評価）			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	お楽しみ会のことをふりかえる			○	様子・発言
2	伝えたいことを考える①		○		様子・発言
3	伝えたいことを考える②	○			様子・発言・記述
4	お楽しみ会の感想を伝える		◎		発表・発言
5	運動会の練習日記をつけよう（団体演技）	○	○	○	様子・記述
6	頑張っていること、できるようになったことを考える		○		様子・発言
7	招待状を書く	○			様子・発言・記述
8	運動会へ来てほしい気持ちを録画する	◎	◎		様子・発言・録画
9	よりよい伝え方を考える。	◎			様子・発言
10	運動会へ来てほしい気持ちを伝える		○	◎	家庭協力（自己評価）
11	仲間との思い出をふりかえる			○	様子・発言
12	ありがとうと思ったできごとを考える①		○	◎	様子・発言
13	ありがとうと思ったできごとを考える②	○			様子・発言・記述
14	仲間へ感謝の気持ちを伝えよう		◎		発表・発言

1学期

2学期

- 特別支援学校小学部の国語科
- 国語科と自立活動を合わせた指導

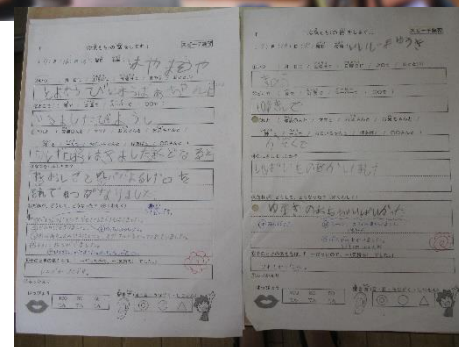
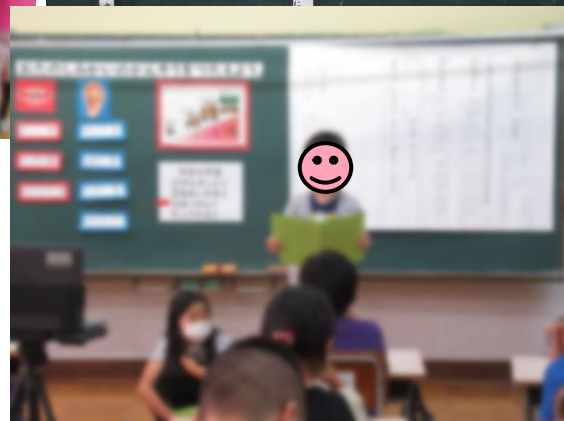
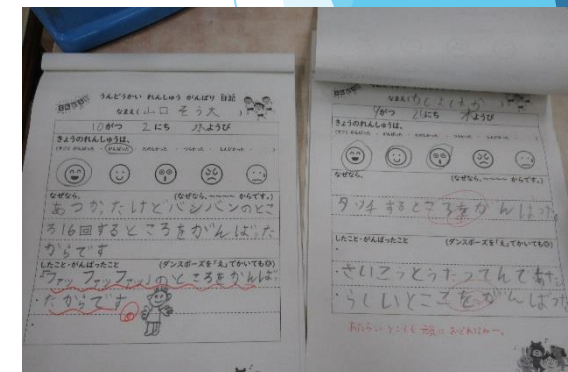
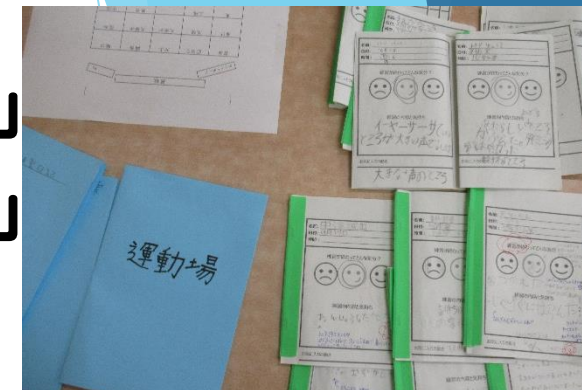
支援学級 1学期 「お楽しみ会をふり返ろう」 2学期 「運動会の招待状を書こう」

個別の課題に応じた目標に対して

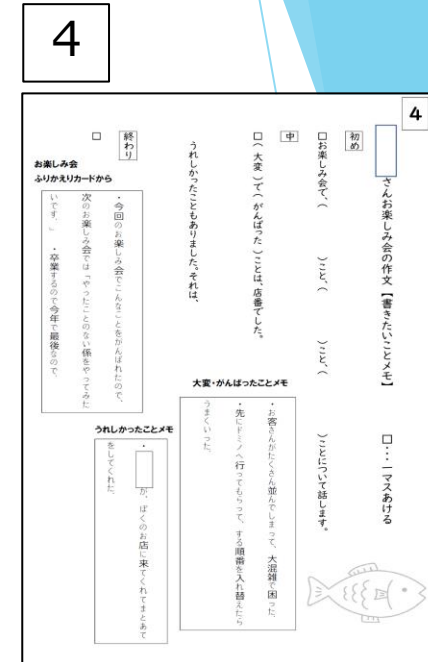
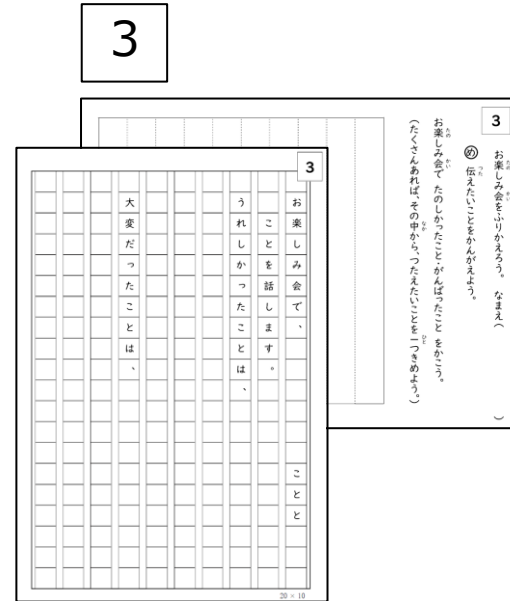
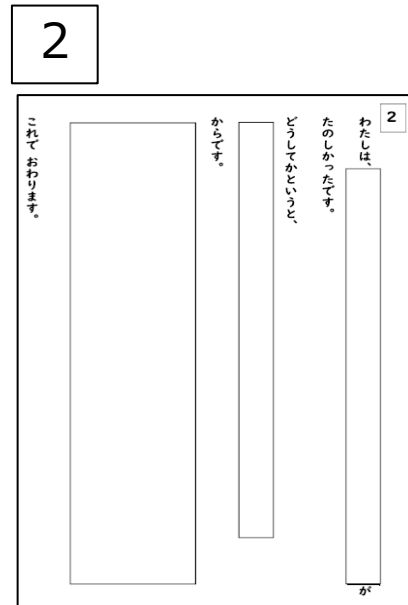
思ったことや伝えたいことを書く活動「発表メモ」「招待状」「感謝の手紙」

伝えたいことを話したり聞いたりする活動「発表会」「思いを伝える動画」「仲間との思い出の共有」

できるようになったことを伝え、より良い伝え方について考えた。



個に応じたゴール設定と手立て



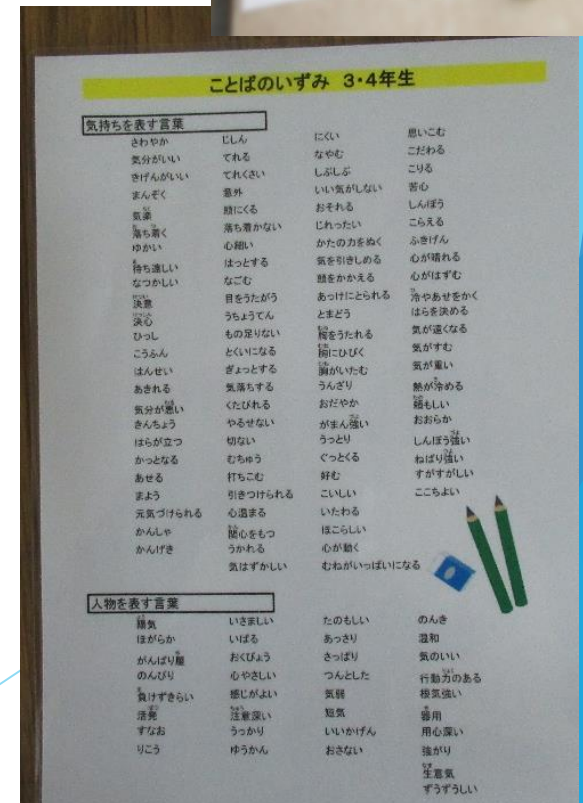
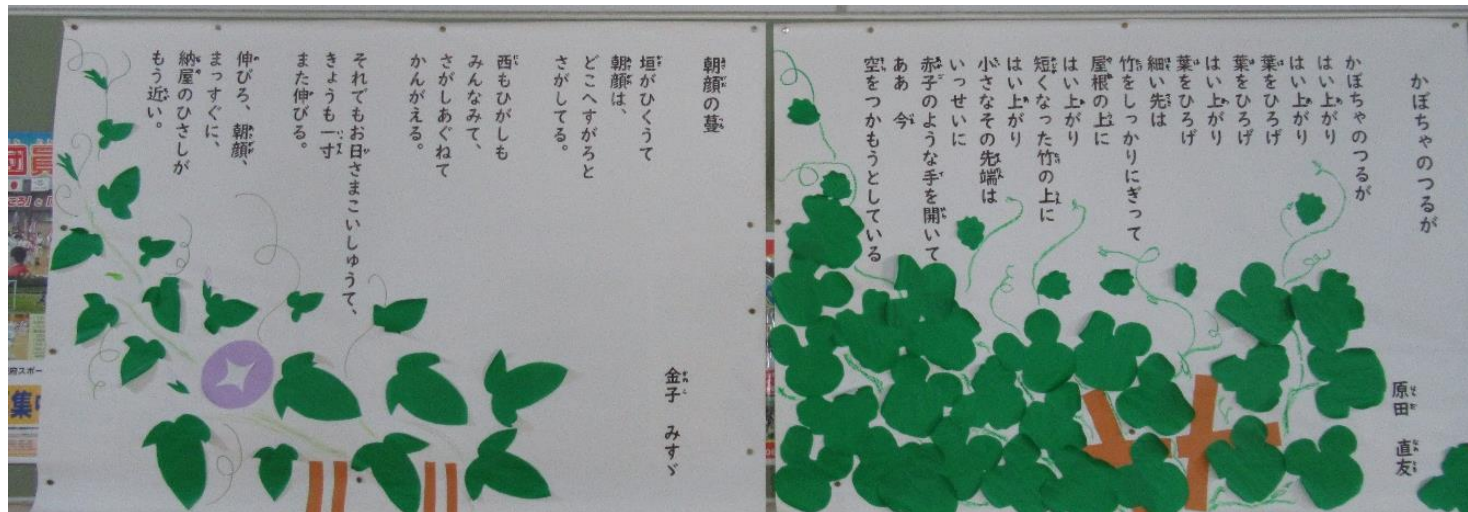
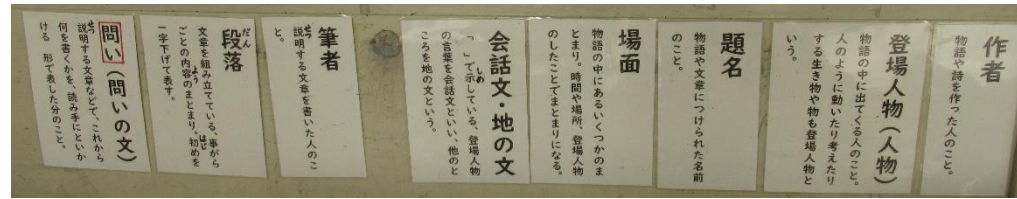
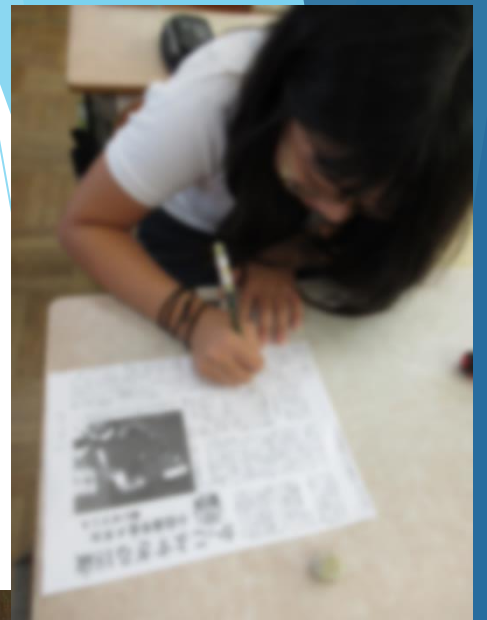
支援学級全体でのゴール設定

伝える内容の段階

1	写真や絵から伝えたいことを選び、提示する。
2	経験を3文から5文程度で伝える。
3	経験や理由など5文から7文程度で伝える。
4	はじめ・中・おわりや事柄の順序を考えて伝える。

4. 学校全体の取り組み

- モジュールの時間に新聞ワークや国語活用プリントの実施
- 学習用語の掲示
- 「ことばのいずみ」児童一人ひとりに配付活用
- 月ごとに詩を紹介



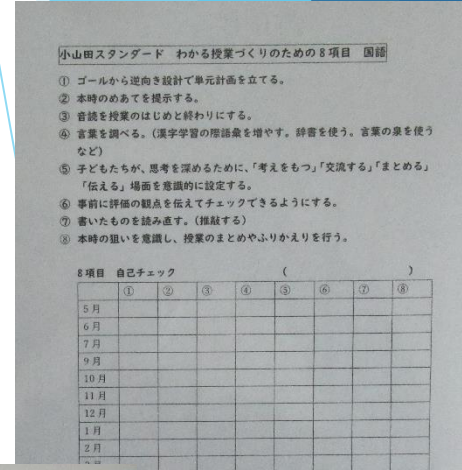
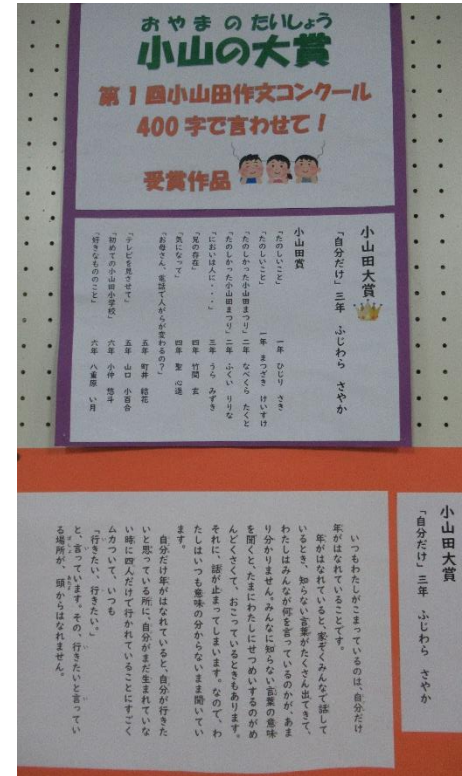
4. 学校全体の取り組み

○小山田作文コンクール400字で言わせて！

5月・10月

○俳句募集

「夏だ！小山田！5・7・5」

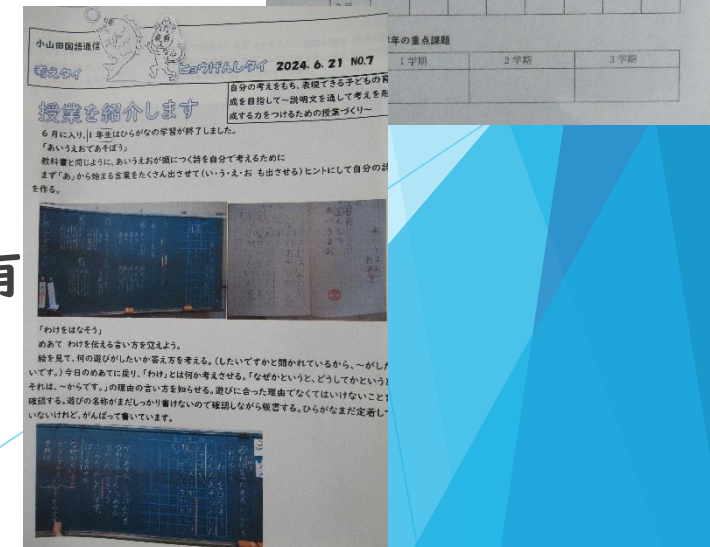


○図書室との連携 関連図書の並行読書 11月読書冊数表彰

○自主勉強のすすめ 自主勉強コンクール

○国語通信「考えタイ ひょうげんしタイ」の発行で取り組みの共有

○小山田スタンダード わかる授業づくりのための8項目 国語



5. 取り組みから見えてきたこと

【児童】

○書く意欲が高まってきた。ゴールを示すことで主体性が高まった。

○授業づくりアンケートより **すべての項目で4月を上回っていた。**

☆授業の中で自分の考えを書こうとしている。 **85.7ポイント**

4月	7月	10月
72.4	75.7	76.2

☆話し合う場面で自分の考えを深めたり広げたりしている。

☆授業で学んだことを普段の生活の中で活用できないか考えている。

4月	7月	10月
62.6	67.3	68.6

○全国学力・学習状況調査結果より

☆平均正答率は、「思考・判断・表現」では、全国・大阪府を上回る結果となった。

☆「読むこと」「書くこと」の正答率は高く、特に記述式問題の正答率が高かった。

2 二「文章の空欄に入る内容を取材メモをもとにして書く問題」では、目的やや意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができています。

(平均正答率73.8 大阪府より+20.1ポイント)

3 三「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題」では、人物像や、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして条件に合わせて自分の考えを書くことができています。

(平均正答率83.3 大阪府より+12.5ポイント)

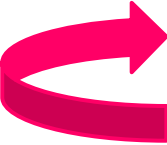

全国学力・学習状況調査 国語の記述式問題について

	R4	R5	R6
記述式問題の正答率	44.3%	50.5%	78.6%
記述式問題の無回答率の平均	13.8%	11.3%	3.6%

5. 取り組みから見えてきたこと

【教師】

- 全員で取り組むことで、系統性を考えて研究できた。
- 1学期2学期と説明文で取り組んだことで、学習の積み重ねを意識できた。
- 指導と評価の一体化 評価を考えるために、まずつけたい力に向けて逆向き設計でゴールの評価物を自分たちで作ってみることで、手立てや評価を具体的に持つことができた。

 授業のことで話し合う姿が多く見られるようになった。
褒める→書くのが楽しく→伸びる・主体的→教員の会話増える 

より子ども主体の授業づくりへ

6. おわりに

子どもが自ら考えるためには？と試行錯誤しながらとりくんできました。

Oneteam 先生方が同じ方向を向いて取り組むことの大切さを実感しています。

まだまだ道半ばですが、子どもも教職員も「できた！」「わかった！」「かけた！」「力がついてきた！」と実感できる授業研究をしていきたいです。



ありがとうございました。